

# ダスト18

2018年11月3日は、手塚治虫が生まれてちょうど90年目の日でした。この誕生日をはさんだ前後1年を「手塚治虫生誕90周年記念」期間と題し、さまざまな企画が行われています。そのひとつとして、『ダスト8』を原作とした舞台『悪魔と天使』が上演されます。『ダスト8』は1972年に週刊少年サンデーで連載された『ダスト18』がもとになった作品です。当初は18人分のエピソードが描かれる予定でしたが、連載が未完のまま終了。その後100ページ以上の改変を経て『ダスト8』と改題の上で単行本化されました。そのため、初出版の『ダスト18』は幻のSF作品となってしまったのです。それがこの度、生誕90周年を記念して出版されました！B5版の雑誌連載サイズというこだわりもすてきです。

大事故に遭うも「生命の石」のかけらを手に入れたおかげで奇跡の生還を遂げた18人と、その生命の石を奪おうとする妖精キキモラ。石を取り上げられたら、そこに待ち受けるのは「死」。それぞれの人間たちが死を目にした時の行動を描く、生と死を巡る異色のオムニバス作品です。

私は今まで手塚作品を読んでこなかったのが、今回読んでみて面白さにびっくりしました。半世紀近く前に描かれた作品なのに話題は古くなく、絵柄はポップで親しみやすい。「マンガの神様」といわれる理由がわかりました。

手塚治虫は大阪府で生まれ、5歳の時に宝塚に引っ越してきました。それ以来、漫画家として上京するまでの約20年間を過ごしました。実家の隣には宝塚スターの天津乙女の家があり、よく観劇にも行っていたそうです。『リボンの騎士』は宝塚歌劇の影響を受けて描かれた作品です。

「関西という風土。この摂津の土は日本全国で最高の水準であります」国際都市・神戸、商業都市・大阪、豊かな自然とインターナショナルなレビューのある宝塚が一体となって自分を育てた、と彼は言います。現在、宝塚には手塚治虫記念館があります。リニューアルのため閉館していますが、4月1日からオープンだそうです。興味がある方はぜひ行ってみてください。

図書館には『火の鳥』『ブラック・ジャック』『アドルフに告ぐ』『ばるばる』など名作もそろっています。読み始めたら、一気に最後まで読んでしまうと思うので、テスト前には控えたほうがいいかも...？私はまず、舞台『悪魔と天使』を観に行ってきます

手塚治虫

本名：手塚治。1928/11/03-

1989/02/09。大阪府豊中市生まれ。

大阪大学医学専門部卒業。医学博士。

1946年、『マアチャンの日記帳』でデビュー。1947年『新寶島』が大ヒット

する。以来、日本のストーリー漫画の確立に尽くす。また、アニメーションの世界でも、大きな業績を残す。代表作に『鉄腕アトム』をはじめ、『リボンの騎士』『火の鳥』『ジャングル大帝』『ブラック・ジャック』『三つ目がとおる』などがある。

# 手塚治虫